

ブダペスト通信

盛田 常夫



2022年 NO. 35

10月4日

1兆円のEU補助金をめぐるハンガリー政府のドタバタ

事あるごとに欧州委員会や欧州議会の決定に盾突いてきたハンガリーには、コロナ禍からの復興補助金支給に厳しい条件が付けられている。これまでEU補助金の配分で、政権政治家（親族）や政権に近い企業家が優先的な扱いを受けてきた。これにたいし、欧州委員会は補助金支給のための是正条件を設定した。9月18日付で欧州委員会がハンガリー政府に提示した十数項目にわたる条件は以下の通りである。

1. EU 補助金の配分実行において、それを監視する機関を設けること。
2. 腐敗防止の作業チームを創設すること。
3. 腐敗防止の枠組みを強化すること。
4. 公益法人による EU 補助金の使用について、透明性を確保すること。
5. 補助金の執行および公共資産にかかわる犯罪に適用すべき特別の手続きを明確化すること。
6. EU 補助金の適切な使用を保障するために、監査・監視メカニズムを強化すること。
7. EU 補助金から支出される公共事業の引受けで、単独指名を避けること。
8. 同じく、国家財政から支出される公共事業の引受けで、単独指名を避けること。
9. 単独指名となった場合の公共事業の引受けの場合には、その状況を説明する文書を作成すること。
10. 透明性を高めるための電子公共発注システムの促進。
11. 公共発注の効率性と予算の効率性を評価する実効性測定の実績を築くこと。
12. 公共発注の競争力を高めるための行動指針の策定。
13. ミクロ・中小企業への公共発注の人材育成。
14. 公共発注に参加するミクロ・中手企業の費用を補填する補助システムの構築。
15. Arachne（欧州委員会が採用するリスク測定ツール）の採用。
16. OLAF（欧州不正対策局）との協調の推進。
17. 公共支出の透明性を担保する法整備。

ハンガリー政府は 11 月 19 日までに、この条件を満たす法整備を行うことが義務付けられた。これは欧州委員会の最終的な決定であり、ハンガリー政府がこの要件を充足しない場合には、およそ 1 兆円規模の補助金を失うことになる。

財政赤字と Forint 平価の持続的低下に苦しむハンガリーにとって、1 兆円規模の補助金は喉から手が出るほど欲しい資金である。したがって、9 月から始まった国会はこれらに関連する法案の審議が優先課題になっている。政府はこの補助金獲得を至上命令とし、この方針にそって欧州委員会との協議を進めている。

ただし、法整備を行っても、中身が伴わなければ意味がない。Fidesz が絶対多数を占める国会において、政権政党の恣意的な補助金配分を規制する実効的な仕組みが策定されるかどうか。これまでも検察庁長官は政権の息のかかった人物が、すでに 2028 年までの 20 年近い任期を与えられ、政権の腐敗暴露を防いできた。OLAF からの捜査要請

にも真面目に応えたことがない。腐敗防止庁を設立しても、現在の政権下でまともに機能するとは考えづらい。

オルバン首相や政権幹部、政権周辺の実業家を批判したパロディで人気のある Somogyi Andas が面白い。この腐敗庁設置をおちよくったパロディは次のサイトで見ることができる。

<https://www.youtube.com/watch?v=zItTQZ4VZfo>

ノヴァク大統領は「プーチンの4州併合宣言」批判に署名せず

ハンガリー政府は「戦争と制裁が国民経済を破壊する」という宣伝を行っている。「戦争」と言うが、けっして「ロシアの侵略戦争」とは言わない。ノヴァク大統領が就任式で、「プーチンの侵略戦争」と述べたが、これは唯一の例外である。これ以外にハンガリー政府の要人が「ロシアの侵略戦争」、「プーチンの侵略戦争」という言葉を使ったことはなく、一般的な表現として「戦争反対」と述べるだけである。

最近では、戦争批判より、EUの対ロシア制裁を批判することに重点が移っており、「制裁のために国民生活が困難になっている」と制裁批判を強めている。他方、「それではどうすればよいのか」については、口をつぐんでいる。

最近でも国会議長のクヴィールは、「戦争は我々が起こしたのものではない。我々は戦争に関与しない」と言っている。隣国で多くに市民が無残に殺されている状況にたいして、ウクライナ国民へ寄り添う気持ちはなく、連帯を表明することもない。「自分さえよければそれでよい」とプーチンに忖度するような政治家や個人が、国際社会で尊敬されることはないだろう。

プーチンによるウクライナ併合を批判した文書に中東欧諸国の国家元首は署名を添えて公表した（10月2日）が、そこにはノヴァク大統領の名前がない。この文書に署名したのは、ポーランド、スロヴァキア、エストニア、リトアニア、ラトヴィア、ルーマニア、北マケドニア、モンテネグロの元首である。ウクライナと国境を接している国の中で、署名しなかったのはハンガリーとモルドヴァだけである。この文書に署名していないスロヴァニア、クロアチア、ブルガリア、アルバニアの元首や首相はウクライナを

訪問している。そのなかで、ハンガリーだけは首相も大統領もウクライナを訪問していない。

就任式でプーチンを批判したノヴァク大統領だが、さすがに中東欧元首のプーチン批判文書に署名する権限までは与えられていなかったのだろう。「オルバン首相の傀儡という批判は、女性大統領を見下すものだ」と見得を切ったノヴァク女史だが、その言動に制限があることは最初から分かり切ったことだった。